

みんなで人権^{じんけん}を考える「つなぐ」 TUNAGU II

そのだ ひさこ

「TUNAGU II」とは

人と人、心と心をつなぐ、世界とつなぐ一人権尊重のまちづくりの一環として、さまざまな人権問題について市民の皆さんと共に考えます。

自由^{じゆう}で、楽しい同和教育^{どうわきょう}から！

11月29日、30日の二日間にわたって、部落解放・人権確立第41回「全九州研究会」が北九州市で開催された。

私はその中の、「被差別部落の歴史と現在」の分科会の発表者として参加した。分科会では、自費出版した絵本「いのちの花」（絵：丸木俊、文：そのだひさこ）を16年間、子どもに自己表現をさせる教材として取り組みつづけてきた中学校の美術教師Kさんの授業実践報告があった。ちなみに、教材になっている絵本「いのちの花」は1800年に博多・現福岡市で実際に起こった濡れ衣事件を題材にしている。当時、見ることを禁止されていた芝居を見に行ったという罪をさせられ、被差別部落の14歳から20歳の若者5人が無実で殺されたというお寺の過去帳にのこる史実を絵本化したものである。

丸木俊さんの原画は素晴らしいが、Kさんの授業は、あえて、絵本の「詩」だけをまず子どもとともに読み深めていき、詩の中の好きな文言を選ばせ、その感想画を完成させていく取り組みである。美術の授業としてスタートし、子どもが詩を読んで感じた「思い」をつづらせ、一枚の絵に表現し完成させていくまでのそのプロセスは、子どもの「思い」に寄り添い、何度も問いを重ねつつ作業である。

この取り組みが16年も続いているのは、学ぶ側の子どもたちが毎年変わっていきからというわけではない。詩の読みこみ、絵の下書き、彩色などの全ての工程で会話をしながら子どもたちの「こう感じた」、「こう表現したい」というイメージを言葉から絵に変換していくプロセスを一緒に練り上げていく。その子どもたちの「思い」が「作品」として、形になっていく過程が楽しいからだ。Kさんはいう。

理不尽な差別に対し、自分の「思い」を表現する手段は言葉でも、音楽でも、絵でも自由である。私はずっと、完成した絵を発表しあう最後の人権集会に呼んでいただいている。その人権集会で丸木俊さんの圧倒的な原画を初めて子どもたちは鑑賞し息をのむ。けれど、子どもたちもそれぞれにすばらしい表現者である。私の詩がさまざまな絵になっていくその発想・表現の斬新さ、豊かさに毎回感動し、最後に作者としての熱くなった「思い」を子どもたちに伝えていく。この取り組みは、子どもをゆさぶり、部落差別に対する豊かな認識を深める自由で楽しい部落問題学習そのものであると感じている。

部落差別についての記述が社会科の教科書に掲載されて50年。福岡県下、これらの内容をもとにさまざまな方法で、部落差別をなくす教育が行われてきた。今後、自由で楽しい学びを子どもたちとともに探りたいと思う。

問 教育政策課

色とりどりに自己表現^{じこひんげん}

令和4年、年末恒例の今年の漢字一文字は「戦」でした。美しい国ウクライナが無数の砲弾により壊されていくさまを、今の子どもたちはリアルタイムで見えています。

今年度も市内の多数の児童生徒が「人権ポスター」に応募してくれました。その「人権ポスター」にも「戦争反対」へのメッセージが色とりどりに表現されています。日常的な人権学習を通して「戦争は最大の差別だ」と学んでいるからこそポスターに塗られた一つ一つの色が、悲しみや怒りや嘆きを訴えています。絵は、子どもたちの自己表現なので「戦争をなくしてほしい」「差別をなくしたい」との思いが線となり色となり表出しています。

戦争も差別もいじめもない世界を子どもたちに手渡したいという、大人の願いとはうらはらなことが今日の世界で起こっています。ならば、私たち大人は、子どもたちと同じように自らの意思を表現しなければならぬと思います。

筑紫野市人権尊重の
まちづくりスローガン

自分が人からされたり、
言われたりして、
いやなことは、
自分は人にしない、言わない

平成29年度筑紫野市総合教育会議にて、子どもにも大人にも理解でき、実践に移せるスローガンとして決議されました。